授業科目名	2単位	担当教員
キリスト教学 I (Christianity I)	(2-0)	青野 和彦

本学の建学の理念、キリスト教の教典である旧約・新約聖書の概要(時代背景、メッセージ)の学びを通して、キリスト教の影響を受けてきた諸外国の文化や社会生活に多大な影響を与えてきたキリスト教とその母胎となったユダヤ教の特色の理解を目標とする。またこの学習を通して、現代世界が抱える諸課題、特に異民族間の平和と共生に対する聖書のメッセージをさらに多角的に把握することができよう。

授業の概要

本授業では、①本学の建学理念と設立の経緯、②旧約聖書、③新約聖書の概要、時代背景、各文書の メッセージを聖書、テキスト、配布資料を通して講義してゆく。最終的にそれらの学習を通して、上記の目 標を達成してゆく。

予習:教科書、資料(事前配布)を読み、学習のポイントを把握しておく。

復習:"レビュー・シート "(各2問)を提出する。

授業計画

I	第 1回:	授業オリエンテーション、キリスト 教と建学の精神と設立の経緯
П	第 2回:	「旧約聖書」の概要(緒論)と 時代背景
	第 3回:	「天地創造物語」① -人間と世界の創造-
	第 4回:	「天地創造物語」② 一人間の「原罪」—
	第 5回:	族長の生涯(アブラハム、イサク、 ヤコブさらにヨセフ)
	第 6回:	モーセと出エジプト
	第 7回:	イスラエル王国の成立と王たちの 生涯(サウロ、ダビデ、ソロモン)
, ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	第 8回:	王国の分裂と滅亡史

Ⅲ 第9回:	預言者達の活動
第 10 回:	信仰による文学
第 11 回:	新約聖書の概要(緒論)と時 代背景
第 12 回:	福音書の内容とイエス・キリ ストの生涯
第 13 回:	イエス・キリストの「たとえ 話し」(Parable)の思想とメ ッセージ
第 14 回:	イエス・キリストの十字架と 復活の意味とメッセージ
第 15 回:	教会の歩みと使徒達の活動 (ペトロ、パウロ)

テキスト: ・日本聖書協会(編)『聖書』新共同訳 日本聖書協会、1987年。

・川崎 正明『旧約聖書を読もう』日本キリスト教団出版局、1995年。

・四竃 揚『新約聖書を読もう』日本キリスト教団出版局、1995年。

参考書: <・大城 実 『聖書と思想と世界』 沖縄コロニー印刷、2000年。>

評価方法・評価基準:原則として、期末試験、レポート、授業中の態度、

授業への参加度を総合的に勘案して最終的な評価をする。

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
期末レポート	0	0	0		0		60
小課題	0	0	0		0		25
授業への参加度			0	0			15
受講者の発表							
演習							

履修上の注意:・毎回『聖書』(新共同訳版)を購入の上、必ず持参すること。

- ・「月曜礼拝」の出席を奨励する。
- ・出席(毎回とる)、課題の提出および学生として相応しいマナーを心がけること。

授業科目名	2単位	担当教員
キリスト教学 II (Christianity II)	(2-0)	青野和彦・望月智

本授業は、次の目標を持つ。、西洋キリスト教史、日本のキリスト教史の特色(主に事件と人物の思想)の正確な把握、もう一つの世界宗教であるイスラム教の特色とキリスト教との関係の理解。またこの学習を通して、現代の国際社会の諸相を正確に読み解き、平和構築に向けて必要な教養の習得も目指したい。

授業の概要

キリスト教の歴史的発展を原始キリスト教会から現代までの歩みを概観し、歴史に生きるキリスト教会の遺産を検証しつつ、現代世界と社会に横たわるキリスト教世界の諸課題を探る。

予習: 教科書、資料(事前配布)を読み、学習のポイントを把握しておく。

復習: "レビュー・シート "(各2問)を提出する。

授 業 計 画

第1回:	授業オリエンテーション (概要と 目的、評価方法の説明)
第2回:	日本のキリスト教史
第3回:	米国キリスト教史
第4回:	人種差別とキリスト教①:16 世 紀中南米キリスト教史
第5回:	人種差別とキリスト教②: 南アフ リカの「アパルトヘイト」
第6回:	視聴覚教材による学習 (アパルト ヘイトに関して)
第7回:	古代キリスト教史①: 初代教会史
第8回:	古代キリスト教史②: キリスト教 会とローマ帝国

第 9回:	古代キリスト教史③: 古代カトリック 教会
第10回:	中世キリスト教史① : キリスト教のゲ ルマン民族への浸透
第 11 回:	中世キリスト教史②:十字軍衛生の功 罪、中世文化(スコラ学、建築、音楽) 及び大学(universitas)の設立と発展
第12回:	イスラム教史(成立と思想・制度的特色)
第13回:	宗教改革史①:M. ルターによるドイツ 宗教改革
第14回:	宗教改革史②: J. カルヴァンによるス イス宗教改革史
第15回:	カトリックの反宗教改革史(イエズス 会を中心に)

テキスト:・日本聖書協会(編)『聖書』新共同訳、日本聖書協会、1987年。

・斎藤正彦『キリスト教の歴史』、新教出版社、2005年。

※使用テキストは初回講義時に説明するので、確認してから購入すること。

参考書:

- ・カール・ホイシ著・荒井献 [他] 訳『教会史概説』、新教出版社、1990年。
- ・荒井献・出村彰・出村みや子『総説キリスト教史1~3』、日本キリスト教団出版局、2006・07年、他。

評価方法·評価基準:

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
期末レポート	0	0	0		0		60
小課題	0	0	0		0		25
授業への参加度			0	0			15
受講者の発表							
演習				0			
その他							

履修上の注意:・保育科の一部のクラスでは「新約聖書学」をテーマとして講義する。

その「授業計画」は初回の授業時に配布・説明する。なおその際、教科書も指定する。

- ・毎回、『聖書』(新共同訳版)も必ず持参すること。 ・「月曜礼拝」出席を奨励する。
- ・出席(毎回とる)、課題提出および学生として相応しいマナーを心がけること。
- 「キリスト教 I 」を履修しておくこと。

授業科目名 2単位 (1-1) 上原明子・糸洲理子・藤原幸男

授業の到達目標

知識理解:新書読書の意義を認識し、新書読書の方法を学ぶ事ができる

思考判断: ロジカルシンキングとクリティカルシンキングを鍛えることができる 関心意欲: 社会事象・課題について、自分事として捉え、提言することができる 態度: 学ぶことの喜びを感じ、学ぶことへの責任を自覚することができる

授業の概要

新書読書を通して、読書力、要約力、批判的思考力、論理的思考力を鍛える。 各テーマを、複数回行うことにより、段階的に学べる仕組みとなっている。

予習:シラバスを確認し、副読本の部分を読んでくること

復習:講義内で指示したタスクにとりくむこと

授業計画 (※クラスの状況に応じた内容変更あり)

第 1回:	オリエンテーション/図書館ツ アー(前期クラスのみ)
第 2回:	精読(1)新書読書入門
第 3回:	精読(2)新書読書実践
第 4回:	批判的読み
第 5回:	要約(1)キーワードについて
第 6回:	要約(2)「字ノート分析
第 7回:	要約(3)段階的再構築
第 8回:	要約文まとめ

第10回: ブックリポート(2)下書き提出 第11回: ブックリポート(3)口頭報告・清書提出 第12回: 提言文(1)テーマ決定 第13回: 提言文(2)計画書作成 第14回: 提言文(3)下書き提出 第15回: 提言文(4)口頭報告・清書提出	第 9回:	ブックリポート(1)概要説明
第 11 回: 清書提出 第 12 回: 提言文(1)テーマ決定 第 13 回: 提言文(2)計画書作成 第 14 回: 提言文(3)下書き提出	第 10 回:	ブックリポート(2)下書き提出
第 13 回: 提言文(2)計画書作成 第 14 回: 提言文(3)下書き提出	第 11 回:	7 7 7 7 1 (G) 1 20 1 KH
第 14 回 : 提言文(3)下書き提出	第 12 回:	提言文(1)テーマ決定
	第 13 回:	提言文(2)計画書作成
第 15 回: 提言文(4)口頭報告・清書提出	第 14 回:	提言文(3)下書き提出
	第 15 回:	提言文(4)口頭報告・清書提出

テキスト:指定の新書を購入のこと

参 考 書:講義にて紹介

-----評価方法·評価基準: 1 ブックリポート 2 提言文 3 課題への取り組み

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	0	0	0				50
授業態度			0	0			4 0
受講者の発表				0	0		10
演習							評価に加えず
その他							評価に加えず

履修上の注意: ・授業参加についてのセルフ・ルールを決めて実行してください

授業科目名2単位
(0-2)担当教員コンピュータリテラシー
(Computer Literacy)(0-2)内間清晴・高江洲義尚・金城豪

授業の到達目標

PC の基礎的操作方法を習得させる。具体的にはワープロによる文章の作成、表計算ソフトによる数値情報の分析方法等が実践的に修得できる。

授業の概要

- ① コンピューター操作の基本的な知識・技能を習得し、究極的には情報を自由に検索、享受、処理、加工、 創造、発信が行えるような情報リテラシーを育て、コンピューターを日常使いこなせるための基礎を学 ぶ。また、情報化社会へ参画する姿勢についても学ぶ。
- ② 毎回の演習内容を復習し次回の演習の予習を行う。(15回分の講義内容は指定フォルダ内にあります。)

授業計画

第 1回: オリエンテーション: ①パソコンの概念 ②使用登録・パスワードの設定 ③電子メールの設定

第 2回: パソコンの概念: ①Windows の基本操作 ②0S の基本操作 ③インターネット

第 3回: Word2007: ①Word の基本操作 ②文章の作成保存

第 4回: Word2007:①文章のデザイン

第 5回: Word2007: ①書式の応用

第 6回: Word2007: ①表示能力を高める ②オブジクトの挿入

第 7回: Word2007: ①はがき文書の作成 ②図形の作成

第 8回: Word2007: ①表の作成 ②表の編集

第 9回: Excel 2007: ①基本操作 ②一覧表の作成 ③データの入力

第10回: Excel 2007: ①計算式の入力 第11回: Excel 2007: ①関数式の入力 第12回: Excel 2007: ①グラフの作成

第 13 回: Excel 2007: ①グラフのデザインおよびレイアウト

第 14 回: Excel 2007: ①データの並べ替え ②データの検索 ③データへの条件設定

第 15 回: Excel 2007: ①データへの条件設定 ②まとめ

テキスト: 『例題 30+演習問題 70 でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint 標準テキスト

参考書:

評価方法・評価基準:課題80点 授業への参加度20点

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演習	0	0	0	0	0		80
授業への参加度	0	0	0	0	0		20

履修上の注意:各自 USB メモリーを準備すること

授業科目名	2単位	担当教員
キリスト教平和学 (Christian Peace Studies)	(2-0)	金永秀

授業の到達目標及びテーマ

「キリスト教」「沖縄」から平和に関するイシュー、思想、歴史を考える

授業の概要

聖書における平和理解をはじめ、特にキリスト教の歴史の中にみられる主要な平和論又は反暴力 運動を概観し、いわゆる「ポスト冷戦」時代における平和運動、特に沖縄における平和運動の重要性 に目覚め、「平和の島・沖縄」建設への道を模索すると共にグローバルな視点での平和を考える。

予習:次回講義のために予習すべきことをそのつど告知する。

復習:その日の講義内容をまとめる。

授 業 計 画

第1回:	コース・オリエンテーション
第2回:	聖書における平和(シャロームとエイレー ネ)
第3回:	聖書における国家権力と宗教
第4回:	アウグスチヌスにおける「地上の国」と 「神の国」
第5回:	宗教改革者 (特にアナバプテスト) の戦争と 平和理解をめぐって
第6回:	「大交易時代」の琉球の夢と理想
第7回:	マーティンルーサーキング ガンジーの非暴力運動と思想
第8回:	「15 年戦争」の結末としての沖縄戦

第9回:	ナチスの台頭と教会闘争「バルメン宣言」にお ける平和の理念
第 10 回:	第二次大戦とキリスト教
第11回:	フィールド
第 12 回:	戦争沖縄における土地闘争と平和論の特質
第13回:	戦争と女性
第 14 回:	マーティン・ルーサー・キング牧師
第 15 回:	まとめ
第16回:	期末試験

テキスト: 『聖書』

参 考 書: 『非暴力思想の研究』、『バルメン宣言研究』等

評価方法・評価基準:レポート 1) ブック・レポート

- 2) フィールドのレポート
- 3) ロ頭及び文章によるリサーチのリポート

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	0						80
小テスト・ 授業内レポート		0	0				10
授業態度			0	0			10
受講者の発表							
演習							

授業科目名	2単位	担当教員
キリスト教人間学 (Christian Ethics)	(2-0)	青野和彦

本教科は聖書とそのキリスト論を根拠として、人間の生きる「道」を探求する学びである。キリスト教の死生観等の内面的 テーマと共に、現代社会が直面する諸問題に対する聖書の観点を解き明かすことを目標とする。またその学習を通して、キリ スト教学(概論)で学んだ聖書の知識をより深めることも目指す。

授業の概要

上記目標を達成すべく、キリスト教人間学(倫理)の主要な領域テーマについて、①それぞれのテーマに対する聖書の見解の把握、②その中で提起される過去から現代にわたる諸問題を解説する。

予習: 教科書、資料(事前配布)を読み、学習のポイントを把握しておく。

復習: "レビュー・シート "(各2問) を提出する。

授業計画

第1回:	授業オリエンテーション	
第2回:	生命(聖書における「生」の意味、 聖書から見た「クローン人間」、 「人工妊娠中絶」など)	
第3回:	死(テーマ:安楽死と尊厳死、 ホスピス・終末期ケアー、エイズ、 自殺から1つ)	
第4回:	生命と死:3.11 について考える	ŀ
第5回:	愛(アガペーとエロース)	
第6回:	幸福	ŀ
第7回:	罪	
第 8回:	男性と女性(同性愛者、性同一性 障がい者の人権等)	Į

第 9回:	結婚と家庭(キリスト教の結婚観、家 庭観、子供を巡る環境など)
第10回:	労働と余暇(キリスト教から見た労働 問題、所得格差など)
第11回:	社会と福祉(キリスト教から見たボラ ンティア、少子高齢化問題など)
第 12 回:	国家と政治(キリスト教と「愛国心」、 「君が代」・「日の丸」など)
第 13 回:	戦争と平和①(聖書の説く戦争と平和)
第14回:	戦争と平和②(キリスト教から見た 核兵器の保有の問題)
第 15 回:	イスラム教とキリスト教

※必要に応じて視聴覚教材も使用する予定

テキスト: ・日本聖書協会編『新共同訳聖書』、日本聖書協会、1987年。

・原 栄作『現代に生きる人間像』(聖書と人間3)、新教出版、1992年。

※テーマに関連する資料も毎回配布する。

参 考 書: ・小田島嘉久『キリスト教倫理入門』、ヨルダン社出版部、1988年。

・神田健次、関根清三、金子啓一、栗林輝夫編『講座 現代キリスト教倫理』(1-4巻)

日本キリスト教団出版局、1999年。

評価方法:評価基準:

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
期末レポート	0	0	0		0		60
小課題	0	0	0		0		25
授業への参加度			0	0			15
受講者の発表							
演習				0			

履修上の注意:・毎回、『聖書』(新共同訳版)も必ず持参すること。 ・「月曜礼拝」出席を奨励する。

- ・出席(毎回とる)、課題提出および学生として相応しいマナーを心がけること。
- ·「キリスト教学 I」、「キリスト教概論」を履修しておくことが望ましい。

授業科目名	2単位	担当教員
文学と読書 (Literature and Reading)	(2-0)	上原 明子

知識理解:文学に対する造型を深めることができる

思考判断:鍛錬型読書を通じ、批判的思考力、共感的想像力を培うことができる 関心意欲:単独読書と協同読書の体験により、読書の喜びを味わうことができる 態度:作家の思考や作品のテーマ、文体に対して深く感応するようになる

授業の概要

青年期に必要な鍛錬型読書を体系的に学び、読書力の養成を行なう。多様な文学作品に触れることで、自己の生き方への 考察を深めると同時に、作品の鑑賞、作家論の学習に加え、作品朗誦を行うことにより、読書の身体化を図る。

毎回の講義の始めに副読本の15分読書を行い、協同読書の楽しみを学ぶ。

予習:シラバスを確認し、授業で扱う作品を精読しておくこと。

復習:講義内で指示したタスクにとりくむこと。

授業計画

第 1回:	オリエンテーション・課題説 明・読書体験のフィードバック
第 2回:	鍛錬型読書について
第 3回:	宮澤賢治のエポック(1) 課題報告①宮澤賢治について
第 4回:	宮澤賢治のエポック(2) 「よだかの星」(1)鑑賞
第 5回:	宮澤賢治のエポック(3) 「よだかの星」(2) 「火のイマージュ」を読み解く
第 6回:	宮澤賢治のエポック(4) 「よだかの星」(3) テーマに迫る
第 7回:	課題報告② 「生きる」ことをテーマとして いる絵本・小説について

第 8回:	作品の中のリズム(1) 俳句(小林一茶、松尾芭蕉、与謝蕪村)
第 9回:	作品の中のリズム(2) 琉歌(吉屋チル、他)
第10回:	作品の中のリズム(3)「平家物語」
第11回:	課題報告③ リズムある詩・作品について
第12回:	文学アラカルト(夏目漱石、太宰治、 芥川龍之介、森鴎外、他)
第13回:	課題報告④ 15 分読書・読み愛について
第14回:	課題報告
第 15 回:	フィードバック

テキスト: シラバスに示された作品や資料のコピーを教師が適宜配布する。

参 考 書: 授業の中で指示。

評価方法·評価基準:教室活動への参加態度、課題の提出、授業への参加度、課題や発表への取り組み等を総合的に評価する。履修者が準備する場合もある。

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	0	0	0				30
授業態度			0	0			40
受講者の発表		0	0	0			30
演 習							評価に含まず
その他							評価に含まず

履修上の注意: 副読本を購入してください。(毎回の講義の協同読書にて使用)

授業科目名 2単位 はじめての日本語教育 (Japanese language teaching Introduction) 上原 明子

授業の到達目標

知識理解:日本語の構造、日本語教育について深く考えることができるようになる思考判断:教えるという視点から日本語に触れることで新たな発見ができる

関心意欲: 自文化と異文化への理解を通して多文化共生について考えることができる

態 度:他者理解と自己認識が育まれる

授業の概要

日本語を教える立場に立ち、日本語文法を学ぶことで、新しい視点から日本語を学ぶ

外国語教育の一環としての学びを通し、「共に生きる」という社会人としての姿勢を培うことにもつながる。

予習:シラバスを確認し、授業で扱う作品を精読しておくこと。

復習:講義内で指示したタスクにとりくむこと。

授業計画 (※クラスの状況に応じた内容変更あり)

第 1回: オリエンテーション・課題配付(外国語教授法についてのレポート)

第 2回: 日本語教育とコミュニケーション (テキスト1章対応)

第 3回: 教育の焦点化とスティックフィギア (テキスト2章対応)

第 4回: 「話すこと」の教育とコミュニケーションゲーム (テキスト9章対応)

第 5回: 「書くこと」の教育と日本語カチェック(テキスト4章対応)

第 6回: 「読むこと」の教育と教材作成(テキスト6章・7章対応)

第 7回: スピーチ教育とスピーチ実践(テキスト5章対応)

第 8回: 日本語文法の世界(1)述語文(品詞とハとガの使い分け)

第 9回: 日本語文法の世界(2)自動詞と他動詞

第10回: 日本語文法の世界(3)修飾するという機能(形容詞・副詞)

第11回: 日本語文法の世界(4)話者の視点移動(テンス・アスペクト・モダリティ)

第12回: 日本語文法の世界(5)敬語の本質 第13回: 練習問題作成(テキスト3章対応)

第 14 回: 評価することについて (テキスト 8 章対応) 第 15 回: 課題報告とまとめ (テキスト 9 章対応)

テキスト:『はじめての日本語教育・2[日本語教授法入門]』高見澤孟 (アスク講談社)

参 考 書:講義にて紹介

評価方法·評価基準:

1 授業への参加態度を重視 2 毎回のフィードバックレポート提出 3 課題への取り組みと試験

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間·期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	0	0	0		0		30
授業態度			0	0			40
受講者の発表				0	0		30
演習							評価に加えず
その他							評価に加えず

履修上の注意:

・授業参加についてのセルフ・ルールを決めて実行してください

授業科目名	2単位	担当教員
朗読の科学 (Science of Recitation)	(2-0)	上原 明子

知識理解:日本語の音声学、朗読の表現方法の理論を学ぶことができる

思考判断:作品のリズム構造の分析や群読表現を通して、作品への理解を深めることができる

関心意欲:集団でのパフォーマンスを楽しみ、意連の喜びを感じることができる

態 度:グループ、クラス単位でのパフォーマンスにおける責任感を培うことができる

授業の概要

日本語の音声学的知識と、実践的な音声表現を学ぶことにより、新しい切り口からの文学体験を行うことを目的とする。

15回のうち、前半は、音声学や群読の基礎力を養成し、後半は、表現のための実践トレーニングを行う。

毎回のクラスは、3つの部分から構成されている。

I. 体操·呼吸法·発声

Ⅱ. 日本語の音声学・群読の技法 講義

Ⅲ. 課題への取り組み

予習:シラバスを確認し、授業で扱う作品を精読しておくこと。

復習:講義内で指示したタスクにとりくむこと。

授業計画

第1回:	「深い呼吸に支えられた深い声(1) 身体と対話する」
第2回:	「深い呼吸に支えられた深い声(2) 声を感じる」
第3回:	「美しいリズムと声の響き(1)母音」
第4回:	「美しいリズムと声の響き(2)子音」
第5回:	「美しいリズムと声の響き(3) 日本語の母音と子音」
第6回:	「美しいリズムと声の響き(4) 内に向かうリズムと外へ開くリズム」
第7回:	「美しいリズムと声の響き(5) 日本語作品のリズム構造の分析」
第 8回:	「群読の技法(1)」

第 9回:	「群読の技法(2)」
第 10 回:	中間まとめ
第 11 回:	「表現する(1) 作品の読み込み・読み譜つけ」
第 12 回:	「表現する(2) 間の取り方」
第 13 回:	「表現する(3) 意識を連ねる」
第 14 回:	「表現する(4) ゲネプロ(衣装着用)」
第 15 回:	発表会「コトバの渚」・最終まとめ

テキスト: 講師作成資料を配布。

参考書: テーマ毎に指示。

評価方法·評価基準:①授業態度

②日本語音声学についてレポート

③ 「コトバの渚」参加 4 最終レポート提出

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	0						50
授業態度							20
受講者の発表			0	0			30
演習							評価に含めず

履修上の注意:①体操のできる服装で参加すること ②講師による配布資料をきちんとファイルしておくこと ③「コトバの渚」とゲネプロに参加できることが履修条件

授業科目名	2単位	担当教員
沖縄の言語 (Okinawan Language)	(2-0)	仲原 穣

知識理解:沖縄語の基礎的な内容を理解し,説明できる。

関心意欲:沖縄の家庭・地域・社会などで話されている言葉に興味を持てる。 思考判断:伝統的な方言を使用するお年寄りの話しを理解することができる。

態 度:方言だから簡単だろうという考えではなく,外国語を習得するような謙虚な気持ちを持つ。

授業の概要

この科目は沖縄で使われている伝統的な方言の基本的な知識を身につけ、老年層のことばを聞き取ること、簡単な会話をする力を身につけることを目的とした授業である。旅行用の会話集のような決められた文だけを覚えるという手法では、老年層の方々との会話は成り立たない。相手のことばを聞いて理解し、自分が伝えたいことを相手にうまく伝える会話のキャッチボールが続かなければコミュニケーションがとれないからである。授業のなかで音の特徴や文のしくみなどの基礎的な知識を学ぶことで、お年寄りのことばが自然に耳に入ってくるようになり、会話の鎖がつながる。

授業では、会話文を基にした教科書を使って学ぶ。また、沖縄のことわざやわらべうたなども使用する。なお、授業はウチナーグチの一つである「首里方言」を中心に進める。

予習: 予定している講義内容をシラバスで確認し、テキストの該当箇所に目を通してくる

復習:講義で配られたプリントを次の講義までに読み返し、自力で問題が解けるか確認する。また、宿題が課されている場合は必ず解いてくること

授業計画

~ ~ ~ ~ ~ ~	
第 1回:	講義概要,琉球語とは
第 2回:	琉球諸方言の多様性
第 3回:	音のしくみ(母音①)第1課
第 4回:	音のしくみ(母音②/子音①) 第1課
第 5回:	文のしくみ(助詞①/指示語), 音のしくみ(母音③)第1課
第 6回:	文のしくみ (サ形容詞①/動詞①)第2課
第 7回:	文のしくみ(動詞②), 音のしくみ(子音②)第2課
第 8回:	中間試験,音と文のしくみ (ウチナーグチ独特の音,助詞②) 第2課

第 9回:	文のしくみ(動詞③)第3課
第10回:	文のしくみ(係り結び)第3課
第11回:	文のしくみ(疑問文)第4課
第12回:	文のしくみ (丁寧な言い方①〔動詞·形容詞〕) 第5課
第 13 回:	文のしくみ(動詞④)第5課
第14回:	文のしくみ (ナ形容詞と過去の表現)第6課
第15回:	まとめ 第6課
第16回:	期末試験

テキスト: 西岡敏・仲原穣[著], 中島由美・伊狩典子[協力]

『CD付改訂版 沖縄語の入門 —たのしいウチナーグチ— 』(白水社)

参 考 書: 外間守善[著]『沖縄の言葉と歴史』中央公論社

野原三義[著]『うちなあぐちへの招待』沖縄タイムス社

国立国語研究所[編] 『沖縄語辞典』財務省印刷局

評価方法·評価基準:

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	0	0	0				70
小テスト・ 授業内レポート	0		0	0			15
授業態度				0			15
受講者の発表							
演習							
その他							

履修上の注意:配布するプリントや資料を綴り、毎時間持参すること。

授業科目名	2単位	担当教員
沖縄の歴史と現在 (Ryukyu modern history)	(2-0)	照屋 信治

授業の到達目標及びテーマ

沖縄の歴史に関する一定程度の知識を習得し、現代沖縄に関する諸問題を歴史的な視点から考察することができるようになること。

授業の概要

現在の沖縄をめぐる諸問題は、歴史的な堆積の上に存在するものである。その歴史的経緯を抜きに沖縄を論ずることはできない。本講義では、基地・文化・歴史教科書・アイデンティティといった沖縄をめぐる諸問題を歴史的な視点から考察してゆく。私たちが生きる沖縄の現在と沖縄近現代史とを往還することになる。

授業形態に関しては、各回のテーマを論争的なものひとつに絞り込み、授業前半で講師による解説を行い、授業後半で参加者間の 意見の交換・バズ討論・発表という展開をとる。よって、参加する学生の発言が授業成立の前提となり、積極的な参加が不可欠であ る。

沖縄でより良く生きるための学知を提供し、話し合いの空間の創造を目指すので、より多くの学生の参加を期待する。

予習:ネットや文献で「授業計画」にある歴史用語を調べ概要を把握した上で授業に臨むこと

復習:提示された参考文献に目を通すこと

授業計画

第1回:	オリエンテーション
第2回:	【現在①】沖縄イメージとその政治 性 : 『ちゅらさん』『ナヴィの恋』
第3回:	【現在②】歴史認識をめぐる抗争① 2007 年の歴史教科書検定をめぐる沖 縄県民集会
第4回:	【現在③】歴史認識をめぐる抗争② 小林よしのり『沖縄論』
第5回:	【近代①】「琉球処分」論争と「琉球 救国運動」(1870-1895)
第6回:	【近代②】謝花昇と沖縄の自由民権 運動 (1900 年前後)
第7回:	【近代③】伊波普猷の日琉同祖論と 「個性」論(1910 年代)

第 8回:	【近代④】近代沖縄の歴史教育 (1895-1940年)
第 9回:	【近代⑤】山之口獏と大和で生きる沖 縄人
第 10 回:	【近代⑥】ソテツ地獄と移民、植民地
第11回:	【近代⑦】「方言論争」と柳宗悦(1940 年)
第 12 回:	【近代⑧】沖縄戦と「方言」(1945年)
第13回:	【戦後①】米軍基地の建設と沖縄経済 (1950 年代)
第14回:	【戦後②】復帰運動と 1960 年代の「方 言札」
第 15 回:	【戦後③】「反復帰論」と沖縄独立論・ 自立論(1860 年代~現在)

テキスト: 講師が配布するレジュメ・資料をテキストとして用いる。

参 考 書: 池宮城秀意『戦争と沖縄』岩波書店、1980年(ブックレヴューの課題図書)

評価方法・評価基準:評価に関しては、沖縄史の概説書のブックレビューの提出、各回の議論への参加具合、中間期末試験、レポートによって行う。

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	0	0			0		40
授業態度	0	0	0	0	0		40
受講者の発表	0	0	0	0	0		20
演 習							
その他							

履修上の注意:新聞・TV・書籍などで沖縄社会の動向に注意を払うこと

授業科目名	2単位	担当教員	
科学リテラシー	(1-1)	内間 清晴	

自然現象を定性的に理解し、科学的な物の考え方・見方ができる。

科学リテラシー(問題解決能力)を修得する。

授業の概要

① 近年理科嫌いの生徒・学生が増えている。その理由に、これまでの学校教育が計算主導型、受験対策型であったことが考えられる。今講義では、難しい数式を利用せずに、物作りを通して、自然現象を理解する。
 ☆特に保育科の学生に対しては、子ども達が自然現象に感動し、自然事象にたいする探求力・想像力を育成できる保育者の養成を目的とする。

② 毎回、講義で理解したことを提出する。

予習/復習:毎回の講義内容をの復習し、講義中に指示された課題を行う事によってより理解を深め、次回の講義に臨むこと。

授業計画

第 1回: 日本の科学リテラシーについて

第 2回: 大気圧、風(台風)

第 3回: カのモーメント

第 4回: 波について

第 5回: 光の屈折,回折について 第 6回: 光の干渉、偏光について

第 7回: 鏡、レンズ、カメラによる物の見え方

第 8回: 電磁波 第 9回: 静電気

第 10 回: 電流と磁石について

第11回: 電流と抵抗

第12回: 地球温暖化とクリーンエネルギーについて、極低温の世界

第 13 回: 課題学習 1 第 14 回: 課題学習 2 第 15 回: 課題学習 3

● 上記の講義内容は変更することがあります。

テキスト: 教科書は使用しません。毎時間プリントを配布いたします。

評価方法・評価基準:課題・レポート80点、授業への参加度20点

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間·期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演習	0	0	0	0	0		80
授業への参加度	0	0	0	0	0		20
その他							

履修上の注意:

作成した実験道具は持ち帰ってもらいます。

そのため教材費として各自2,000円を納めてもらいます。

授業科目名	2単位	担当教員
文系学生のための基礎数学演習 I	(1-1)	内間 清晴

- ① 数学の基礎・基本を十分に理解し、基本的な数式の計算ができ、数学的なもののの考え方ができる。
- ② ある事柄や現象を式、図、表、グラフ等を用いて数学的に表現することができる。

授業の概要

- 1 数学の基本的な知識、概念を学ぶ事を通して論理的思考力を養成する。数学の基礎・基本を十分に理解する。 具体的には講義形式だけではなく、演習も行い、教養としての数学を学ぶ。 2 毎回の講義内容を予習し復習に勤める。 3 前回の講義内容の理解度を確認するために、講義の最初の部分で小テストを行う。

授業計画

第1回:	イントロダクション
第2回:	仕事・割合 1
第3回:	仕事・割合 2
第4回:	方程式
第5回:	連立方程式
第6回:	損益算
第7回:	平均の速さと速度
第 8回:	場合の数・順列と組み合わせ 1

第 9回:	場合の数・順列と組み合わせ 2
第10回:	確率1
第11回:	確率 2
第12回:	精算・割合 1
第13回:	精算・割合 2
第14回:	順位の推論 1
第15回:	順位の推論 2
第16回:	期末テスト

上記の講義計画の順番・内容は変更することがあります。

テキスト: 最新最強の SPI

参 考 書: 適宜に提供

評価方法·評価基準:

総合的な評価で、次の項目が大切となります。

① 筆記試験 80%、② レポート・豆テスト等 20%

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	0	0	0	0	0		80
小テスト・ 授業内レポート	0	0	0	0	0		20
授業態度							
受講者の発表							
演習							
その他							

授業科目名	2単位	担当教員
文系学生のための基礎数学演習Ⅱ	(1-1)	内間 清晴

- (1) 数学の基礎・基本を十分に理解し、基本的な数式の計算ができ、数学的なものの考え方ができる。
- ② ある事柄や現象を式、図、表、グラフ等を用いて数学的に表現することができる

授業の概要

- ① 数学の基本的な知識、概念を学ぶ事を通して論理的思考力を養成する。具体的には講義形式だけではなく、 演習も行い、教養としての数学を学ぶ。
- 毎回の講義内容を予習し復習に勤める。
- ② 毎回の講義内容を予習し復習に勤める。③ 毎回の講義内容の理解度を確認するために、講義の最初の部分で小テストを行う。

授 業 計

第1回: イントロダクション 第2回: 集合論1 第3回: 集合論2 第4回: N進法 第5回: 方程式 第6回: 連立方程式 第7回: 方程式と不等式 第8回: 順列と組み合わせ

第 9回:	関数とグラフ1
第10回:	関数とグラフ2
第11回:	図形の読み取り
第 12 回:	図表の読み取り
第 13 回:	等差数列
第 14 回:	等差数列 2, 等比数列 1
第 15 回:	等比数列 2, まとめ
第16回:	期末テスト

● 上記の講義計画の順番・内容は変更することがあります。

テキスト: 最新最強の SPI

参 考 書: 適宜に提供

評価方法·評価基準:

総合的な評価で、次の項目が大切となります。

① 筆記試験 80%、 ② レポート・豆テスト等 20%

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	0	0	0		0		80
小テスト・ 授業内レポート	0	0	0		0		20
授業態度							
受講者の発表							
演習							
その他							

授業科目名	2単位	担当教員
日本国憲法 (Japanese Constitution)	(2-0)	仲宗根 京子

授業の到達目標及びテーマ

そもそも法律とは別に、なぜ憲法があるのでしょうか?本講義では、日本国憲法の基本原理 を学んだ上で、私達の身近にある憲法に関する具体的な問題をより深く理解することで、主権 者である私達自身が、憲法の現在そして未来について考えられるようになることを目標としま す。

授業の概要

まず、近代立憲主義が確立されてきた世界の歴史や日本国憲法が成立するまでの歴史をたどり、次に、憲法で保障されている基本的な権利の内容を具体的な事例を基に解説します。そして、基本的人権を保障するための国の仕組みや平和主義について理解を進める予定です。

予習:配付レジュメや教科書の該当箇所を読んで来てください。

復習:講義で指示した点を復習してください。

授業計画

ガイダンス、近代立憲主義の確立、明治憲法から日本国憲法へ
日本国憲法の基本原理(憲法と は誰を縛るルールか?)
人権総論(人権の分類、新しい 人権、外国人の人権)
子供の権利
法の下の平等
精神的自由①内心の自由
②表現の自由
③検閲の禁止

第 9回:	経済的自由(財産権保障の構造他)
第10回:	社会権(自由権とはどう違うのか?)
第11回:	その他の人権、まとめ
第12回:	統治総論
第13回:	国会および内閣
第14回:	裁判所
第 15 回:	平和主義、総まとめ

テキスト: 初宿正典他著『いちばんやさしい憲法入門第4版』有斐閣アルマシリーズ(有斐閣)

参 考 書: 初宿正典他著『目で見る憲法 第4版』(有斐閣)

評価方法・評価基準:期末試験の結果、授業への参加度、授業態度などから総合的に評価する。

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	0	0			0		55
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度			0	0			25
受講者の発表		0	0		0		20
演習							
その他							

履修上の注意:受講希望者は、必ず第1回目の授業に出席してください。

授業科目名	- 2単位	担当教員
心理学	(2-0)	仲村 將義
(Introduction to Psychology)		TT作 内 文

身の回りの行動や現象について、心理学的に理解する。

授業の概要

- 1. 心理学の各分野の知見について、グループワークで学ぶ。
- 2. 心理学の知識を、受講者相互の日常的な現象と結びつけて理解する。
- 3. 心理学の見方や考え方を日常の人間関係や学業等に活かす力を育てる

予習:講義の終わりに、次回の予習課題を示す。

復習:出席用紙にそのつど本時の講義の要旨と感想をまとめるか小テストを行う。

授業計画

第1回:	オリエンテーション 構成的グループエンカウンター
第2回:	心理学の歴史と方法 哲学から科学へ・4 つの潮流
第3回:	行動主義(刺激・反応で心を説明) 行動は学習による
第4回:	ゲシュタルト心理学(全体論)と 精神分析学(人を動かす無意識)
第5回:	性格形成論 (性格の成り立ち) と 防衛機制 (心の守り方)
第6回:	自己決定性と目的論 人生の課題と勇気づけ
第7回:	現代心理学 進んだ細分化・専門化
第8回:	自分を知る心理学 エゴグラム他

第 9回:	恋愛に使える心理学
	男女の違い
第10回:	恋愛の心理メカニズム
第10回.	うまくいく恋の仕組み
第11回:	「仕事」に使える心理学
第11回:	役割による人間関係
第 12 回:	人間関係に使える心理学
第12回 .	つきあい・ふれあいの仕方
第13回:	折合いをつける心理学
第15回。	自他の欲求調整法
第14回:	ストレス対処の心理学
第14回.	上手な怒り方とリラックス法
第 15 回:	自分に活かす心理学
क्र 10 <u>वि</u> .	成りたい自分になる方法
第16回:	テスト
Д, ±0 П .	

テキスト:匠 英一『これだけは知っておきたい心理学の基本と実践テクニック』フォレスト出版 1300円(税別)

参考書:

植木理恵 『ビジュアル図解 心理学』 中経出版 1400円(税別)

ジンバルドー 『現代心理学』 I、Ⅱ、Ⅲ サイエンス社 各3,132円、3,040円、3,320円

評価方法·評価基準

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	自他理解	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	20%	10%	5%		10%	20%		65
授業内レポート	10%				10%			20
発表					5%			5
演習					5%			5
授業への参加度				5%				5
その他								

履修上の注意: 5回以上の講義欠席は、履修不足につき単位を認定できないので注意してください。

授業科目名	2単位	担当教員
カウンセリング (Counseling)	(2-0)	柳田 正豪

カウンセリング技能:基本的な技法を用いてカウンセリングを行うことができる。 カウンセリング理論:基本的なカウンセリング理論を学び心や認知のメカニズムを学ぶ。

授業の概要

カウンセリングを学習するにあたっては、複数の理論と技法を学ぶ必要があるといわれ、また学習方法としては、ロジャーズの「来談者中心的カウンセリング」から始めた方が適切であるといわれている。

人間の心の問題および人間関係の問題に際しての基本的なウンセリング理論や技術等を、講義・演習・討議をとおして学習する。

予習:レジュメを読み、事前に講義を再確認しておくこと。

復習:毎回の授業を復習し、毎クイズに備える。

授業計画

第 1回:	カウンセリングとは何か
第 2回:	臨床心理とカウンセリング
第 3回:	カウンセリング理論と技術 ① 精神分析療法
第 4回:	カウンセリング理論と技術 ② 行動療法
第 5回:	カウンセリング理論と技術 ③ 認知行動療法
第 6回:	カウンセリング理論と技術 ④ 来談者中心療法
第 7回:	ピアヘルパー ①
第 8回:	ピアヘルパー ②

第 9回:	ピアヘルパー ③
第10回:	ピアヘルパー ④
第11回:	カウンセリング演習 ①
第12回:	カウンセリング演習 ②
第13回:	カウンセリング演習 ③
第14回:	精神疾患について
第 15 回:	発達障害について
第16回:	期末テスト

テキスト: 日本教育カウンセラー協会編 2002 『ピアヘルパー ハンドブック』 図書文化

参 考 書: 影山任左 著 『図解雑学 心の病と精神医学』ナツメ社

福山清蔵 著 『入門 カウンセリングワークブック』日本・精神技術研究所

国分康孝 著 『カウンセリングの理論』誠信書房

評価方法・評価基準:授業への参加度・レポート・小テスト・期末試験

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間·期末試験)	0	0			0		4 0
小テスト・ 授業内レポート	0	0					30
授業態度							
受講者の発表							
演習							
授業への参加度			0				20
その他	0						10

授業科目名		担当教員
ヘルスプランニング (体育理論:英語科対象) (Health planning)	2単位 (2-0)	音野 太志

健康に関する心身の諸問題についてその背景と解決策について理解することができる。現在の自分のライフスタイルを健康の観点から認識し、今後のよりよいライフスタイルを形成していくための知識と態度を養うことができる。

授業の概要

授業は、アクティブラーニングの手法を用いて進めていく。

前半は、グループ毎にテーマを決め、現代の健康問題に関し調査し、模擬授業として発表を 行い、各テーマに対しての学びを深める。

後半は、問題への解決方法を探り、同学年へ向けた、健康問題改善の為の取り組みをグループ毎に考案し、提案を行う。

予習:それぞれのテーマに沿った健康問題に関する情報を収集して授業に臨む。

復習:講義で感じた疑問や発見を振り返り、自身の生活と照らし合わせる。

授業計画

第 1回: コースオリエンテーション:健康とは?

第 2回: テーマの決定

第 3回: グループワーク① 第 4回: グループワーク② 第 5回: グループワーク③

第 6回: 発表 第 7回: 発表

第8回: 発表:結果の発表 第9回: 後半:テーマの決定 第10回: グループワーク④ 第11回: グループワーク⑤ 第12回: グループワーク⑥

第13回: 発表 第14回: 発表

第15回: 発表:結果の発表

テキスト: テキストは使用しない。講義ごとに資料を配布する。

参 考 書: 九州大学健康科学センター編 『健康と運動の科学』 大修館書店

評価方法・評価基準:レポート 40 点 (中間 20 点、期末 20 点)、授業への参加度 60 点による。

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	0	0	0				4 O (20×2)
授業態度				0	0		60
受講者の発表							
演習							

授業科目名	1 単位	担当教員
体育理論 [Physical Education(Theory)]	(1-0)	島袋 桂

授業の到達日標

現代社会に生きる人々や自分自身の「からだと内面 (こころ)」について認識し、よりよいライフスタイルを 構築するための知識と態度を養うことができる。

授業の概要

授業は、アクティブラーニングの手法を用いて進めていく。

前半は、グループ毎にテーマを決め、現代の健康問題に関し調査し、模擬授業として発表を 行い、各テーマに対しての学びを深める。

後半は、問題への解決方法を探り、同学年へ向けた、健康問題改善の為の取り組みをグループ毎に考案し、提案を行う。

予習:それぞれのテーマに沿った健康問題に関する情報を収集して授業に臨む。 復習:講義で感じた疑問や発見を振り返り、自身の生活と照らし合わせる。

授業計画

第 1回: コースオリエンテーション:健康とは?

第 2回: テーマの決定

第 3回: グループワーク①第 4回: グループワーク②

第 5回: グループワーク③

第 6回: 発表 第 7回: 発表

第 8回: 発表:結果の発表 第 9回: 後半:テーマの決定 第 10回: グループワーク④ 第 11 回: グループワーク⑤ 第 12 回: グループワーク⑥

第 13 回: 発表 第 14 回: 発表

第15回: 発表:結果の発表

テキスト: 使用しない。講義ごとに資料を配布する。

参 考 書: 九州大学健康研究センター編『健康と運動の科学』 大修館書店他

評価方法・評価基準:レポート40点(中間20点、期末20点)、授業への参加度60点による。

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	0	0	0				40 (20×2)
授業態度				0	0		60
受講者の発表							
演習							

授業科目名	1 単位	担当教員
体育実技 [Physical Education (Sports)]	(0-3)	音野 太志

授業の到達日標

- 1) スポーツの楽しさ、喜びを味わうことができる。
- 2) スポーツに対して、「真剣に」「コミュニケーションを図りながら」実践することを通し、諸課題を解決しながら、個人またはグループの成長プロセスに介入できるようになる。

授業の概要

ドッジビー、ソフトバレーボール、バスケットボールをとりあげる。毎授業では練習と試合を実施する。個人とグループの諸課題について、1)実践 2)ふりかえり 3)次の課題設定 4)実践というプロセスを繰り返すことによって、個人またはグループの成長プロセスを考える機会とする。

予習:体調を整えて授業に備える。

復習:授業内容を振り返り、次の授業に備える。

授業計画

第	1回:	コースオリエンテーション (授業概要、目標、成績評価方法、等)
第	2回:	イニシアティブゲーム
第	3回:	ドッジビー : 練習、ゲーム
第	4回:	ドッジビー:アルティメット 練習、ゲーム
第	5回:	ドッジビー : アルティメット 練習、ゲーム
第	6回:	ドッジビー : アルティメット 練習、ゲーム
第	7回:	ドッジビー:アルティメット 練習、ゲーム
第	8回:	ソフトバレーボール 練習、ゲーム

第 9回:	ソフトバレーボール 練習、ゲーム
第 10 回:	ソフトバレ ー ボール 練習、ゲーム
第 11 回:	ソフトバレーボール 練習、ゲーム
第 12 回:	バスケットボール 練習、ゲーム
第 13 回:	バスケットボール 練習、ゲーム
第 14 回:	バスケットボール 練習、ゲーム
第 15 回:	バスケットボール 練習、ゲーム

テキスト: 使用しない。

参考書: 特になし

評価方法·評価基準:授業への参加度60点 レポート40点 計100点による。実技試験は実施しない。

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート				0	0		4 0
授業態度							
受講者の発表							
演習							
授業への参加度		0		0	0		60
その他							

- 1) 体育館用のシューズを準備し、運動にふさわしいウェアーで参加すること。
- 2) 金属製のピアス、ネックレス、ブレスレット等、人を傷つけ、傷つけられる恐れのあるモノは外すこと。
- 3) その他の注意事項は初回授業時に伝達する。

授業科目名	2単位	担当教員
要約筆記(ノートテイキング) (Note taking)	(1-1)	酒井 ひろ子

授業の到達日標

聴覚障害者の生活及び関連する福祉制度や権利擁護が理解でき、対人援助の一つとして認識することが 出来る。聴覚障害者の社会的状況に関心を持ち、チームで問題解決に取り組める。手書きノートテイクの 基本的な書き方を習得できる。

授業の概要

この授業では、音声中心の社会での聴覚障害者の現状と課題を理解するために、講義・DVD・実習を組み合わせます。

手書き大学ノートテイクの基礎知識を習得すると共に難聴者、中途失聴者に対しての対応の方法を学びます。 予習:テキストを事前に読み、講義の内容を確認しておく。

復習:レジュメをもとに、より理解し、習得する

授業計画

第 1回 オリエンテーション・聴覚障害の基礎知識・聴覚生理と聴覚障害

第 2回 聴覚障害者の基礎知識 ・聴覚障害のコミュニケーション ・中途失聴・難聴者の現状と課題

第 3回 要約筆記の基礎知識 I ・難聴者運動と要約筆記の歴史 ・要約筆記事業の位置づけ

通訳としての要約筆記

第 4回 日本語の基礎知識 ・日本語の特徴 ・日本語の表記 ・日本語の語彙と特徴

第 5回 要約筆記の基礎知識Ⅱ ・要約筆記の目的 ・要約筆記の三原則 ・要約筆記の表記 実習

第 6回 要約筆記の基礎知識Ⅱ ・総合演習

第 7回 話しことばの基礎知識 ・話しことばと書きことば ・話しことばの特徴と活用

第 8回 話しことばの基礎知識 ・総合実習

第 9回 社会福祉の基礎知識 ・日本国憲法と基本的人権の尊重 ・社会福祉の理念と歴史 障害者権利条約 第 10 回 伝達の学習 ・要約の学習

第11回 チームワーク ・チームでの動き方 総合実習

第 12 回 ノートテイク ・ノートテイクの方法 ・書き方 ・場面対応

第 13 回 ノートテイク ・対応 ・技術 ・実習

第14回 要約筆記者のあり方・心構えと倫理・要約筆記者としての専門性

第 15 回 まとめ ・第 1 回~第 14 回までのまとめ

第 16 回 授業内試験

テキスト: 厚生労働省カリキュラム準拠 要約筆記者養成テキスト(上)(下) 「要約筆記者養成テキスト」作成委員会

評価方法・評価基準:試験30%、レポート30%、授業態度20%、演習20%、1/3以上の欠席は不可。

型達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間·期末試験)	0	0			0		30
小テスト・ 授業内レポート	0		0				30
授業態度			0	0			20
受講者の発表							
演習	0	0		0	0		20
その他							

履修上の注意:ペン、白紙は各自で毎回用意する。(1回目に説明)

授業科目名	1 単位	担当教員
ボランティア (Volunteering)	(0-2)	オーガナイザー:城間仙子

授業の到達目標:社会に貢献できる自分を認識し、行動を通じて、自分と社会との関わりを学ぶことができる

授業の概要:多文化共生時代を生きる「私」は、今、社会に対して何ができるのか。

真のボランティア精神育成のため、自分にできる社会奉仕を探し、実践することで、自分をみつ

め、学びのきっかけを得ることを目的とする。

予習:ボランティアの意義に関してリサーチし、知識を得る

復習:実際に行ったボランティアを今後の生活で応用し、優良市民を目指す

授業計画

30時間のボランティア活動を各自で行う。

*学期、学年、種別を問わない。

テキスト: オーガナイザーより個別に指示。

参 考 書: オーガナイザーより個別に指示。

評価方法·評価基準:

在学中に行った30時間分のボランティア活動の活動証明と、レポートを添えて、認定申請用紙と合わせて、オーガナイザーに提出。

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
レポート	0	0	0				100
小テスト・ 授業内レポート							評価に含めず
授業態度							評価に含めず
受講者の発表							評価に含めず
演習							評価に含めず
その他							評価に含めず

履修上の注意:

- (1)ボランティア先への交渉等は、各自の責任において行うものとする。
- ②公共性のあるボランティア活動を対象とする。

認 定 方 法:所定の様式に添って、報告書とレポートを提出する

扫当教員 授業科目名 2単位 日本語音声表現Ⅰ・Ⅱ (0-2)上原 明子 (Japanese Speaking and Listening I · II)

授業の到達日標

知識理解:日本語音声の音声学的知識により、効果的な音声表現訓練へつなげることができる

思考判断:日本語での効果的なプレゼンについてセルフ・ラーニングできる

関心意欲:日本語音声に対する積極的な取り組みを通し、学ぶ意欲を喚起することができる :日本語力を高めることで、日本社会への積極的な関わりを持てるようになる

授業の概要

日本語音声表現Ⅰ・Ⅱを通じ、大学で学ぶのに必要な日本語の聞き取り力、音声表現能力の向上を目的とし、 聞き取りのストラテジーの養成、スピーチ、ニュースや文学作品の朗読についての学習を行う。

Iでは、聞き取りの基本的な学習とニュースやスピーチ、対談、講義など、様々なタイプの音声テキストを 使用し、聴解力の養成を行う。

Ⅱでは、Ⅰの学習を展開させ、内容分析と表現方法についての学習を行ない、スピーチや朗読等、音声 言語での表現力の養成を行う。

予習:シラバスを確認して、テキストを読んでくること

復習:講義内で指示したタスクにとりくむこと

授業計画 (外国人留学生対象科目) ※学習者の状況により変更あり

日本語音声表現 I (前期)

1 回 オリエンテーション、レベルチェッククイズ

テキスト1課~14課についての学習と、聞き取りのストラテジーの講義 第 2~15 回 と実践を行う。

クラス展開:

- 確認テスト(テキストについて、課題確認) トピックについての事前学習
- 聴 解
- 語彙、内容確認
- 聞き取りのストラテジーの講義と実践

日本語音声表現 Ⅱ (後期)

1 オリエンテーション、レベルチェッククイズ

日本語音声について [声に出して読むこと、文章の読み方、リズム構造] 音声表現の技法① 〔文体との関係、叙述文と状況描出文、ニュース〕 音声表現の技法② 〔テンポ、内容分析と演出、朗読〕 第 2~4回

第 5~7回

第 8~10 回

「スピーチ) 音声表現の技法(3) 第 11~15 回

テキスト・参考書: I:1. 山本富美子・工藤嘉名子『国境を越えて〔本文編〕』新曜社

2. 山本富美子・工藤嘉名子『国境を越えて〔文型・表現練習編〕』新曜社

Ⅱ:講師作成資料配布

評価方法・評価基準: 1. 毎回の授業ごとの確認テスト 2. 課題への取り組み

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間·期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	0	0					50
授業態度			0	0			20
受講者の発表				0	0		30
演習							評価に含めず

履修上の注意:①日本語音声表現ⅠとⅡを続けて履修することが望ましい。

②復習、課題をきちんとこなすこと。 ③辞書等を持参すること。

授業科目名	2単位	担当教員
オーラルイングリッシュ (Oral English)	(0-2)	Michael Hertz

Subject/Class Outline:

The objective of this class is to develop English communication skills increasingly necessary in today's preschool/kindergarten working environments. Students wishing to study the American elementary school system abroad will also gain valuable knowledge and insight in preparation for their foreign experience trip.

Lecture Outline:

Everyone will be expected to participate in simple skits, songs, games and lectures, etc. to improve their skills and confidence. This class is designed to be fun and enlightening in many ways, but you have to challenge yourself to let go and have fun.

Lecture Plan:

- 1. Learn common English vocabulary used in the pre-school/kindergarten environment
- 2. Play popular games used to develop English use and comprehension
- 3. Break down the game structure to identify key learning points
- 4. Learn and participate in children's songs that help guide mental development
- 5. Learn and participate in children's dances that help guide physical development
- 6. Fun with verbal and non-verbal skills development
- 7. Participate in simple skits
- 8. Read children's books aloud and discuss inner message
- 9. Classroom management techniques: Motivational
- 10. Classroom management techniques: Destructive
- 11. Identifying and acting on concerns
- 12. The Assistant Language Teacher: Duties and Responsibilities
- 13. Communication with foreign parents
- 14. Chicken soup for teachers and students
- 15. The power of praise

Text:

Materials are prepared and provided by the instructor for every class unless discussed prior to the class.

As part of the class, students are also expected to teach a family member or friend portions of what they have learned to strengthen their skills development.

Grading system:

Class attendance, participation, and individual/group presentations will be incorporated into the final grade.

Class rules (Rishyu jyo no chuui):

Class participation weighs heavy, so it is important not to miss class.

Enthusiastically participate in group and individual work.

Generally, keep track of your own attendance, but ask when needed and provide timely absence slips.

Everyone has the right to learn so do your best to promote that atmosphere.

授業科目名	2単位	担当教員
英語 (English)	(0-2)	Simon Robinson

授業の到達目標: Develop English communication skills necessary in preschool and kindergarten working environment

授業の概要 The objective of this class is to develop English communication skills increasingly necessary in today's preschool/kindergarten/elementary school working environments. Students wishing to study the American elementary school system abroad will also gain valuable knowledge in preparation for their foreign experience trip. Everyone will be expected to participate in simple skits, songs, games and lectures, etc. to improve their skills and confidence. This class is designed to be fun and enlightening.

予習(preparation):

復習(review):

授 業 計 画

第1回:	Basic Conversation 1: Short self-introductions. In the first part of the course we will learn to give a good detailed self-introduction in English, including asking and answering questions. This will provide a foundation of talking ability for the later sections of the course.
第2回:	Basic Conversation 2: Free time
第3回:	Basic Conversation 3: Free time extended discussion
第4回:	Basic Conversation 4: Occupation and Part-time Jobs.
第5回:	Basic Conversation 5: Like and dislike.
第6回:	Basic Conversation 6: Can and can't.
第7回:	Mid-term Test: a self-introduction presentation (using powerpoint or other visual aids).

第 8回:	In the second half of the semester we will look at various teaching activities that teachers can use to introduce English to children. Teaching English to Children 1: Question and Answer Activities
第 9回:	Teaching English to Children 2: Stories
第 10 回 :	Teaching English to Children 3: Games
第 11 回 :	Teaching English to Children 4: Arts and Crafts
第12回:	Teaching English to Children 5: Songs and Music
第13回:	Classroom Management – ways to control a class using only English.
第14回:	Communicating with parents – useful communication strategies.
第15回:	Final Exam: present a short activity to the class.

テキスト: References: Textbooks ↓

There will be no set textbook for this class – the materials will come from the student's own experience and research Materials are prepared and provided by the instructor for every class except for some portions of Arts and Craft classes.

評価方法·評価基準:

Class attendance, participation, and individual/group presentations will be incorporated in the final grade.

	· · <u>I</u> · · · · · , ·		·				
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							評価に加えず
小テスト・ 授業内レポート	0	0	0	0	0		20
授業態度	0	0	0	0	0		20
受講者の発表	0	0	0	0	0		20
演習	0	0	0	0	0		20
その他	0	0	0	0	0		20

履修上の注意:Attendance and participation is very important – please try very hard not to miss class, and be sure to participate actively in all in-class activities.

授業科目名	2 単位	担当教員
中国語	(0-2)	武村朝吉

授業の到達目標及びテーマ

中国語の発音(声調コントロールを含む)の基礎を習得する。それと並行して、基本的な文法 事項を理解(約30個の文型を習得)し、初級レベルの中国語の会話文が読め、簡単な作文と会 話ができることを目標とする。

授業の概要

中国語のピン音(発音記号)の概要を説明すると同時に、個々の発音・声調の具体的発声方法 の充分な練習を行う。それに引き続き、基本的な文法事項を学習し、その応用として、会話練習、 作文練習を行う。この授業では、テキストの第1課から第10課までを学習する。

予習:授業内容を事前に目を通しておくこと。

復習:ピンイン、簡体字の書き取り練習を行うこと。

授業計画

 第1回:
 中国語の発音、ピン音、声調

 第2回:
 発音練習、ピン音書き取り練習

 第3回:
 "吗"を用いた疑問文

 第4回:
 疑問代名詞を用いた疑問文

 第5回:
 形容詞述語文

 第6回:
 動詞述語文

 第7回:
 所属・所有関係を表す連体修飾語

第8回: "是"文、名詞述語文

第 9回:	提案の仕方、"有"文
第 10 回:	介詞構造
第11回:	時間詞
第 12 回:	連動文
第 13 回:	連用修飾語
第 14 回:	方位詞
第 15 回:	反覆疑問文
第16回:	期末試験

テキスト: 『漢語会話 301 句』 康玉華・来思平著作, 語文研究社

参考書:

評価方法·評価基準:

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	0				0		80
授業態度・ 授業への参加度			0	0	0		10
受講者の発表	0		0	0	0		10
その他							

履修上の注意: 相互(学生→教師,学生→学生)の尊重。食べ物・飲み物の持ち込み、無断外出、 授業中の携帯使用禁止。外国語習得には充分な練習の蓄積が欠かせないので、欠席を慎み、かつ 充分な復習を行うよう努めること。5回以上欠席で「不可」とする。

授業科目名	2単位	担当教員	
韓国語 (Korean)	(O-2)	李春花	

授業の到達目標及びテーマ

ここ数年、地理的にアジアの中で一番近い隣国であり、歴史的に密接な交流関係を展開した日本と韓国の間に大衆文化の開 放的交流が活発になり、韓国語を学ぶ人の数も急速に増えている。本授業を通し、韓国語のみならず隣国である韓国の文化や 社会に対する理解を深め、21世紀の主役として、国の境界線を越えたグローバルな視点を養い、将来様々な形で国際的交流に 役立つ能力を身につける。

知識理解:ハングル文字を読み書き、易しい日常会話と発音を聞き話し、簡単な文法を説明できる。

関心意欲: 異文化コミュニケーションに興味を持てる。 態度:専門性、責任意識を持つ。

思考判断:日本と韓国との文化や社会的共通点と相違点を指摘できる。

授業の概要

韓国語の語順は日本語とほとんど同じなので、初めての学習者でもわかりやすい。

初めての学習者でもわかりやすく楽しめるように常に心がけ、ハングル文字の学習、易しい日常会話を

中心に基本文法を扱い、講義を進めながら、韓国文化と歴史、韓国人とのコミュニケーションの取り方、DVD やインターネット等 の視聴覚材料をもって韓国の歌やドラマ及び映画などを紹介する。

学生の準備学習

予習:テキストを事前によく読み、新しい会話表現と基本文法の知識を再確認しておくこと。

復習:授業の際に指示した課題に積極的に取り組み、講義の内容をより理解し、応用に努めること。

授業計画

第 1回: 授業計画(韓国を知る・ことばの特徴・ハングル文字について)と自己紹介

第 2回: テキスト第1課 挨拶表現(1)と母音(1)、歌の学習

テキスト第2課 挨拶表現(2)と子音(1)・母音(2) 第 3回:

テキスト第3課 挨拶表現(3) と子音(2)・母音(3)

第 5回: テキスト第4課 挨拶表現(4)と終声(パッチム)

第 6回: テキスト第5課 挨拶表現(5)と発音の変化

第 7回: テキスト第6課 自己紹介と指定詞、学生のレポート発表&意見交換1

第 8回: テキスト第7課 会話(1)と指定詞の否定形、学生のレポート発表&意見交換2

第 9回: テキスト第8課 会話(2)と합니다体、学生のレポート発表&意見交換3

第10回: テキスト第9課 会話(3)と漢数字、学生のレポート発表&意見交換4

第 11 回: テキスト第 10 課 会話(4) と固有数字、学生のレポート発表&意見交換 5

第12回: まとめ・授業内試験(会話)

第13回: 復習や授業についての意見交換

第 14 回: 韓国映画鑑賞(前編) 第15回: 韓国映画鑑賞(後編)

第16回: 期末試験(筆記:ハングル文字)

テキスト:姜英淑外5人著『楽しく学ぶ ハングル1』白帝社

参 考 書:入佐信宏・文賢珠著『よくわかる 韓国語 STEP1』白帝社 木内明著『基礎から学ぶ 韓国語講座 初級』国書刊行会

評価方法:評価基準:

・試験 40% (会話: 自己紹介等のフリートーク 10%、筆記: ハングル文字 30%) ・毎回の課題提出(会話とハングルに関する学習)20% ・韓国文化についてのレポート提出(A4 用紙 1 -2 枚) & 発表 (3 分程度) 20%

・授業への参与度(遅刻や私語等減点) 10%

数回のクイズ10%

<u>жног то </u>							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	専門性・責任	評価割合(%)
試験 (中間·期末試験)	0	0		0	0		40
毎回の課題提出	0		0				20
レポート提出&発表		0	0		0		20
授業への参与度		0	0	0		0	10
数回のクイズ	0		0			0	10

履修上の注意:授業中に発音練習、レポート発表&意見交換などに積極的に参加すること。

授業科目名	2単位	担当教員		
スペイン語 (Spanish)	(0-2)	又吉 パトリシア		

初めてスペイン語を学ぶ生徒がスペイン語の基礎文法を習得し、簡単な会話と自己紹介ができるように、またスペイン語圏の国々の事情及び文化などを知ることを目指す。

授業の概要

紹介する。

世界のスペイン語を話す人口は現在およそ4億人以上といわれ、スペインだけでなくラテンアメリカの19の国々でも公用語として使用されている。特に沖縄県では多くの移民を中南米へ送り出したという歴史的な理由から、今日でも経済的、文化的な交流が活発に行われている状況にある。 講義では教科書だけではなく、副教材として歌やビデオ教材、映画などを使って、スペイン語圏の世界を

予習: 教科書やプリントなど事前によく読み、語彙と文法を再確認しておくこと 復習: 授業で学んだ文法や表現などを暗記し、自然に言えるように努めること

授業計画

1回: 世界におけるスペイン語、スペイン語圏の国々、沖縄と中南米諸国との関係の紹介

2回: スペイン語の特徴(アルファベット、発音、アクセント)

3回: 主語人称代名詞、SER 動詞の直接法現在形の活用

4回: 名詞の性と数、定冠詞 (定冠詞,不定冠詞)、HAY 動詞、数字 0~10

5回:時刻と日付を表す(数字:11~、曜日、月)

6回: ESTAR 動詞の直接法現在形の活用、場所を尋ねる

7回: SER 動詞と ESTAR 動詞の比較

8回: -ar 動詞の直説法現在形の活用、前置詞

9回: -er と-ir 動詞の直説法現在形の活用、疑問詞

10回:日常生活について話す(動詞の直説法現在形の復習)

11回:値段の聞き方、買い物とレストランでの会話

12回:間接目的格人称代名詞、GUSTAR型の動詞の活用

13回:スペインの夏祭りの紹介

14回: 復習

15回:自己紹介また家族の紹介についての発表、前期のまとめ

16回:期末テスト

テキスト: 1. 『OKINAWA LATINA』 スペイン語への架け橋 (沖縄県スペイン語教材開発研究会) (¥1,000)

参考書:1.講師作成資料

2. 「スペイン語ミニ辞典/ 宮城·宮本編 白水社(¥2,800)、またはスペイン語電子辞書

評価方法・評価基準:最終評価は次の点の合計点とする。

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験(中間·期末試験)	0	0			0		50
小テスト	0	0			0		10
授業態度	0	0	0	0	0		15
受講者の発表	0	0	0	0	0		10
宿題	0	0	0		0		15

履修上の注意:①テキストとスペイン語辞典(電子辞書)を持参すること。

- ②動詞の活用をよく予習・練習すること。
- ③頻繁に小テストを実施するため宿題、予習、復習等をこなすこと。
- ④配布されたプリント、資料を大事にファイルすること。
- ⑤授業中はマナーを守ること(携帯電話・スマートフォン、タブレット等の使用禁止、飲食の

禁止)